間（あい）の宿（しゅく）

長野地区

江戸日本橋から七拾六里

対岸の殿村と共に、特に木曽家の歴史が深く刻み込まれた土地でもある。藩政時代 享保9年(1724)までは須原村の支村であって須原村庄屋の支配を受けていたが、同年に独立して、長野村と称した。

永禄5年(1562)定勝寺客殿奉賀帳（きゃくでんほうがちょう）には「米一俵長野郷中」とあるから、室町中期頃には長野と呼んでいたと思われる。

MAP 1 岩出（いわで）観音（馬頭（ばとう）観音）

大桑駅から徒歩 約25分

定勝寺の飛び地境内で懸崖（けんがい）造りが特徴である。一度焼失した後、定勝寺十九世寿村和尚の尽力によって、文化10年(1813)に再建された建物であるといわれ、舞台の上のお堂は宝形（ほうぎょ）造りという。

岩出観音は馬頭観音で、参道や岩壁には多くの馬頭観音石像や地蔵が安置されている。木曽の三観音の一つで、馬を産育する人たちの信仰を集めた。

木曽の清水寺と呼ばれている。

MAP 2 天長院（てんちょういん）

大桑駅から徒歩 約15分

臨済宗 地久山と号する。古くは広徳寺という界隈きっての古刹が伊奈川にあった時代に遡る。天文年間（1532～55）に焼失した。在家の人たちが駆けつけ、弥勒菩薩・薬師如来・不動尊・大般若経600巻を運び出すことができた。後、弥勒菩薩は上の家山本家の山林中に奉祀され、今の伊奈川神社の創始とされている。

広徳寺跡地に臨済宗天長院が作られ、薬師如来を祀った。その後、街道の変遷により伊奈川の地は不便となり、寛文年間（1661～73）の頃、地蔵堂のあった現在の地へ移動した。

子育て地蔵

天長院入口の石段脇に石仏がある。その中に子どもを抱く小さな地蔵がある。この地蔵の寄進者は、子どもに縁が薄く、祈願の意をもって子育て地蔵の造立を思い立ち、作らせたものと伝えられている。

お問合せ先
大桑村役場 TEL:0264-55-3080 FAX:0264-55-4134
大桑村観光協会 TEL:0264-55-4566
http://www.vill.ookuwa.nagano.jp/kankou/

※写真・イラストは全てイメージです

MAP 3 伊奈川橋

大桑駅から徒歩 約25分

慶長9年(1604) 徳川家康は諸藩に道路の改修を命じる。木曽においても伊奈川橋は、桟（かけはし）・滑川（なめかわ）とともに「三大波計橋（はばかりばし）」と呼ばれ、街道中の難所として尾張藩としても特に留意した箇所であった。

延享4年(1747) 尾張藩は、橋・橋台とも架け替える。「木曽路名所図会」には、「いにしえは二十七間にして閣道なり、西岸より大木を挟み三重、中間大水に架す、景は壮観なり、後世石を畳て崖とし縮めて十六間とする」（山の険しいところに桟を架けて作った道）とある。

大正12年(1923) 7月18日、伊奈川の大洪水により橋桁が折れるなど破損したため、橋杭が設けられるなど、大修理が行われている。

池田英泉の「伊奈川橋遠景」
左上の辺りに岩出観音が描かれている。

MAP 4 八幡（はちまん）神社

大桑駅から徒歩 約20分

木曽義仲の六代の孫、木曽家教は、この地に先に住んでいた今井四郎兼平(中原兼遠の四男・義仲と乳兄弟・義仲の最期近江粟津で義仲に自害を勧めた)の孫という(5代)兼義の招請を入れ、南木曽沼田の地より大屋城（おおやしろ）に移り住んできた。そして正和5年(1316) 館の乾（いぬい）にあたる見張山(兼平山)の麓に八幡宮を勧請して祀った。現在の建物は、昭和19年(1944)再建のもの。

MAP 5 長野 善光寺

大桑駅から徒歩 約20分

木曽氏子孫建立。その後しばらくして廃寺。300年ほど前、地区の人々によりお堂として再興。

もとは圓行寺（えんこうじ）だったが、当時盛んであった善光寺信仰に合わせて、善光寺と呼んだ。

薬師三尊像は、再興後しばらくして作られた。大正12年(1923)7月18日の大水害で押し流され、埋まってしまったが、その後掘り起こされ、安置されている。

MAP 6 今井ナギ

大桑駅から徒歩 約5分

もともと中山道はこの場所を通っていたが、元禄4年（1691）に崩壊し、道あけ不能となった。現在中山道となっている道は、その際に新しく付け替えられた。

西古道

殿地区

波浸と歴史の里

中山道より離れているが、多くの遺跡が発掘されていることから、古くからこの土地に人々の営みがあったことがうかがえる。昔の木曽川西古道が通り、かつては木曽の文化、政治の中心地として繁栄した地域である。

広域MAP 長野県宝 7 池口寺（ちこうじ）薬師堂

大桑駅から徒歩 約10分

池口寺薬師堂は鎌倉時代の建築様式を備えた建築物で、時代の変遷を示す貴重で重要な文化財として平成2年（1990）に長野県宝に指定された。県宝指定を受けている県内の建造物の中で、鎌倉時代のものとしては大きな建物である。間口三間、奥行四間で内部に薬師像、日光・月光像が安置されている。

老朽化が進み平成18年度(2006)から復元工事を開始、4年がかりで復元された。工事では古い木曽ヒノキの部材を再利用して約700年前の創建当時の姿に近づけた。

薬師如来像は修理した跡もあるが鎌倉時代のものと言われ、とくに台座の蓮弁（れんべん）は平安時代の技法が見えると言われている。

薬師三尊像

広域MAP 国の重要文化財 8 白山神社

大桑駅から徒歩 約15分

菊理姫尊（くくりひめのみこと）を祀っている（主神）。菊理姫尊は、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)を仲直りさせたとして、縁結びの神とされている。

本殿覆屋内に左から熊野・伊豆・白山・蔵王の各神社を祀っており、どれも間口１ｍくらいの小さなものでまったく同じに見えるが、白山社が本殿、他の三殿は合殿（あいでん）である。

元弘4年(1334)が創始であるか、あるいは再建であるかは明言できないが、本殿の建築物様式が鎌倉の様式を持っているところからみて、元弘4年(1334)の建造そのままを伝えている物であることは明らかである。社殿は、大面取りの角柱、舟肘木（ふなひじき）と桁を一本で造り出しとなっており、破風の曲線、懸魚などは、鎌倉時代の様式を知る上で、大変貴重である。

白山社

昭和12年(1937)8月25日、国の重要文化財の指定を受ける。